

関根浜及びその周辺地域漁業振興調査 ホタテガイ漁場開発実証試験 (要 約)

平野 忠・対馬 廉介・田中 俊輔

昭和57年12月に大畑～尻屋の6地先に210万個ずつ放流されたホタテガイの、第4回・第5回の追跡調査と、ラーバ調査を行った。また、3か年で得られた成果のとりまとめを行った。なお、結果の詳細については、「昭和59年度関根浜及びその周辺地域漁業振興調査報告書」で報告済みである。

第4回追跡調査

昭和59年8月から10月に、桁網と潜水により行った。桁網の漁獲効率を併せて測定した。

放流時からの生残率は、大畑・関根浜0%、石持29%、野牛25%、岩屋17%、尻屋1%とばらつきが大きかった。

桁網の漁獲効率は15.4～47.6%と前年同様幅がみられた。

第5回追跡調査

昭和60年3月に、桁網と潜水により行った。

放流時からの生残率は、大畑・関根浜・尻屋0%、石持29%、野牛24%、岩屋16%となった。

ラーバ調査

昭和59年4月から7月に、大畑町二枚橋沖で8回、東通村稲崎沖で1回行った。また二枚橋沖に投入された採苗器を7月に調査した。

殻長 $200\mu m$ 以上の大型ラーバの出現数は6月18日に最も多くみられ、陸奥湾と同様例年より大幅に遅れた。

採苗器の投入時期が6月15日と適期だったため、付着稚貝数は採苗器当たり1,252個と昨年に比べ非常に多かった。

3か年のとりまとめ

3か年の結果をもとに、水深・底質・底生生物の諸要因によるホタテガイ漁場としての価値の評価を行い、当海域での最適地・適地・やや適地を区分し、それらの面積はそれぞれ970ha、1,850ha、6,710haとなった。また、種苗の確保、事業化の条件についても考察した。